



刊夕日一廿月一

價定 一部金貳錢 月極 二限リ一ヶ月卅錢

料告廣 五號十三字詰 一行五十錢

日刊休 曜 大祭 祝日の翌日

所刷印 福島縣石城郡平町 田町十六番地 磐城新聞社印刷部

編輯人 川崎文治 印刷人

所行發 福島縣石城郡平町 字長橋町五番地 常磐毎日新聞社

(四)

株式磐城銀行

第五拾六期 營業報告

貸借對照表

負債之部

資本金 五〇,〇〇〇,〇〇〇

諸積立金 三〇,〇〇〇,〇〇〇

諸預り金 三,〇〇〇,〇〇〇

給付補填備金 三,〇〇〇,〇〇〇

日本勸業及興業銀行勘定 一,〇〇〇,〇〇〇

他店ヨリ借入 一,〇〇〇,〇〇〇

借入金 五,〇〇〇,〇〇〇

コールマネー 九,〇〇〇,〇〇〇

再割引手形 三三,〇〇〇,〇〇〇

未拂配當金 三,〇〇〇,〇〇〇

未拂利息及未經過割引料 五,〇〇〇,〇〇〇

當期純益金 一〇七,〇八二,〇九〇

合 計 五五,〇七五,〇九一,〇六一

資産之部

諸貸出金 四八,〇〇〇,〇〇〇

他店へ貸及預け金 五,〇〇〇,〇〇〇

所有有價證券 四六,〇〇〇,〇〇〇

貸付有價證券 三,〇〇〇,〇〇〇

所有土地建物 九七,〇七二,〇〇〇

雜勘定 三,〇〇〇,〇〇〇

現金 有 二七,〇二六,〇四九

合 計 五五,〇七五,〇九一,〇六一

利益金勘定

カテイライ

砂糖かき餅の拵方

モチ米二升につき砂糖百五十匁乃至二百匁を入れます。搗き方は普通の餅と同じです。砂糖は手水の代りに少しづつませよく搗き上げた板の上にとつてナマコ形

につくります。なほ八分通り搗けた鹽里芋を一つすりおろして入れます。焼くとき非常によくふくめます。かき餅にはよく重曹を入れます。これになる方がありますが、重曹は味を悪くいたします。がらやばり里芋を用ひになつた方がよろしう御座います。

カキ餅の干し方

搗き上げたカキ餅はあまり固くなりすぎぬうちに切り初めはなるべく風にあてぬやうにして重ねてたきよぼご乾きかけたら、一枚づつ、箸の上かゴザの上をひろげて、陰干にします。切つてすぐ風にあてると反つたり割れたりしていきませんからそのおつもりで



一金拾萬七千八百八拾貳圓 參拾九錢 當期純益金 是レノ處分スルコト左ノ如シ

金貳萬圓 特別積立金

金參千圓 行員退職給與積立金

金參千圓 役員賞與金

金參萬七千五百圓(年壹割) 配當金

金四萬四千參百八拾貳圓參拾九錢 後期繰越金

右之通りニ候也

大正十三年二月二十日

株式磐城銀行 會社代表 常磐線平町前活動常設

二月一日より上映

純映畫劇

流浪の旅 全六卷

時代劇

勢力富五郎 全五卷

飯岡助五郎 全五卷

日本の實寫

米國ルビン社特作品

喜劇 母の歸り 全二卷

櫻田外傳

舊劇 深川情話 全五卷

帝國館

一冊の代金で 御希望通りな

五冊の雜誌が 自由に讀める

平町長橋町三五

川崎文庫

(申込次第規則書進呈)

株式買中値

左記の値段は今日の標準値に付御用の節は御問合願候

銘柄 拂込 時價

磐城銀行	五〇〇	五七〇
平銀行	五〇〇	六八〇

四倉銀行	一二五	一二五
農工銀行	二〇〇	二六〇
同 新	一五〇	二〇〇
同 新	五〇〇	五三〇
同 新	一二五	一四五
七七銀新	一二五	九五
郡山電氣	五〇〇	四〇〇
同 新	二五〇	一八七
只見川電	一二五	六〇
植田水電	一二五	一四五
好間水電	一二五	一三五
磐城建物	一二五	五五
磐城製菓	二〇〇	六〇
平信託	五〇〇	四九〇
磐城勸業	一二五	一三五
植田物産	三〇〇	二八〇
平製氷	二〇〇	二二〇
好間軌道	五〇〇	三五〇
入山新	三二五	一九〇
小田炭礦	二五〇	一〇〇
磐城炭礦	五〇〇	三九〇
同 新	二二五	一七三
同 新	五〇〇	八七〇
同 新	一七五	三六〇
平運送	一二五	八〇

平町長橋町三五番地 丸登株式店 川添房二郎

奇怪に堪へぬ 新黨の宣言

代議士白井博之氏談

政友本黨と命名された所謂新政黨の宣言なるものを見るに其内容とする處は既に去る十五日の政友會最高幹部會に於ける主張と酷似して居る、即ち宣言にある政界の積弊を一掃して革新の實を擧げ思想の安定を圖り民心を鎮めることは刻下の急務であり、俗情に媚び政黨の本領を没却するが如きは排撃せねばならぬ、また功利に流るゝの風潮は民心の頹廢を來し、綱紀の紊亂た此うち胚胎するが

故に努めて國民精神を振作し道義の伸張に云々此の點は、政友會が當時力説した其まゝである、我々は當時是れ等の目的理想を達成せんが爲めに、政友會は政黨本來の面目に立ち歸り一時の小利害と貴危とを眼中にたかす、斷然起つて憲政の義を唱へ、かりそめにも偷安の風を排し理義のたゞしきに向つて進まねばならぬと主張したのである。また宣言書には階級相互の反感を排撃する事は排せねばならぬとあるが、今日人心やゝもすれば危激に走るの時に當り、脱走諸君が好ん

で非立憲なる貴族内閣を後援し事實に於て恐るべき階級戦を招來するが如きは取りも直さずその宣言の趣旨に反するものではないかと思ふ、新政黨の諸君が眞に階級闘争を愛ふるなれば何故に起つて直ちに此内閣を倒し清浦子を引退せしめ、是れに依つて人心を安定せしむるの舉に出でないのであるか、又政綱に至つては極めて平々凡々であつて何等評するに足らない、たゞ「立憲制度を確立し其運用を誤らざらん事を期す」と云々であるは我々から見て寧ろ奇異の感に堪へぬ (文責在記者)

今曉午前零時

村木町南角 横川建具店 猛炎に包る

損害の見積は約二萬圓

今曉午前零時平町字村木町南角家具製造販賣業横川治三郎方作業場の一隅より發火し天井を燃わ放き見る見事な火災

住宅を包んで真らに

隣接せる町町の代神稻荷神社に火が燃焼し、是れを隣り勢を得たる猛炎は附近を一瞥めにせんと益々燃え広がった此時逸早く駆けつけた平消防組の蒸氣、ガソリン各隊隊を始めてし御堂境、小島、御所其他好閑、平窪、神谷、草野、飯野等の各消防組 必死の活動に依り漸く鎮火するを得たが同家は僅かに店頭を残したばかりで全戸殆んど烏有に歸し損害二萬圓と注せられた、原因は作業場に於て夜

消防手負傷

けふの火災で

別項横川建具店火災に際し消防に盡力中であつた好閑消防組第三部消防手坂本常一、平窪消防組第一消防手金子重貞の兩氏は足部に負傷した

常磐炭が 九州炭で 大競争

値上を断行した常磐炭が

一割安の九州炭に壓倒さる

常磐地方の各炭礦では京濱地方の大震災後激減である九州炭に對し地の利を占めて居た關係上此機會を利用して大いに常磐炭の勢力を擴張し九州の他の各炭を驅逐せんと意氣込で奮闘して来たが一而また大いに樂觀

常磐片々

緑川殉職小頭の實兄の家が猛炎に包まれた

店頭だけでも残す事が出来たのは同情の賜

東京の大舞臺で常磐炭と九州炭が競をける

餘り理由の立たない値上げを断行した常磐炭が押され氣味

是れぢやあ方留の入れやうがない

か常磐炭は切込炭隅田渡し十八圓見當を唱へて居るに對し宇部伊萬里炭はそれより一割安で取引されて居るので常磐炭界では大恐慌を來した

豆マキ

子鉄倉社頭で

平町コン屋町有志に依つて組織した福は内會では二月四日午後五時から縣社子鉄

平郡線に夜行列車

四五月頃から運轉を開始 磐越西線も發着時間改正

警越東線に於ける旅客からの注文はボギー車の運轉及び暖爐設備、腰掛の改造等が主なるものであつたが就中同線には夜行列車のない一大

缺點が あつたので當局に於ては慎重に地方民の事情を參酌し舊臘十二日仙臺鐵道局に於て開催された管内旅客主任會の問題となり審議の結果いよいよ同線に一往復の旅客列車を増加することに決定したが同時に磐越西線は郡山驛に於て東北本線との連絡悪しく

旅客に 對し非常な待ち合はさせる爲め迷惑も甚しいので時間を改正する事となつた而して是等の實施は東北本線一帯の時間改正の四五月頃であらうと

今朝が頂上

一雨降る筈

けさ六時の温度は氷點下三度であつた寒さも是れが頂上であつたから追々暖かくなるだらうと小名濱湖候所では語つて居るが天氣は明日の模様次第で二日頃から悪くなり一雨降るかも知れぬといふ

小川に電話

年度内に開通

石城郡赤井、小川、川前の然し幸にして性の能力は足らざる場合は甚だ少く、多くは過ぎたるを惜まねばならぬことが通則と云つて差しつかひあるまい。人體が稍々熟して生殖に適する年齢に達すれば、性慾の感覺は自ら完成されて来る。其の作用によつて異性相牽引し、その働きによつて赤の他人が微妙に融合して夫婦一體となる夫婦和合の妙諦は性の満悦に負ふ所頗る大であるのを否むことは出来ぬ。國中の秘なる一語は夫婦の心的融合に肉協調が重要な關係を有することを正しく示して居る。結婚前の愛が「プラトニック」であるとしても、結婚後の夫婦愛は決して純潔のプラトニックク、ラブでは決してない。此場合肉慾の加はつたことが穢れてると云ふ意味は毛末もない。夫婦愛は單純であつた戀愛の完成である。戀愛に性慾が加はつて夫婦愛となり、夫婦愛に生殖が加はつて親の愛となるのは愛の進化的生理的進程である。

眞性慾の進化的問題

科男子百名、同女子五十名 普通科廿三名であるが新學期の募集人員は二百五十名の由

旭本縣人會

發會式を擧ぐ

飛雪舞ふ北海道アサヒ川市に在住する本縣人アサヒ川裁判所首席檢察官野源助(相馬)同商業會議所書記長折内義松(石城)同酒造組合書記長榎本長教(石城)北海タイムス支局長鹽谷忠(信夫)上川支廳長乘竹暎(會津)北海日報社長大竹郷朗(東白)の六氏發起となり福島縣人會を組織し去る廿七日午後三時發會式を擧げたが出席者百廿餘名であつた

平商志望別

募集生徒八十名

平商業學校の募集人員は八十名であつて入學試験は三月廿二三日の兩日執行の由因に卒業生は卅六名であるが志望別は進學四名、官衙公署四名、銀行會社商店十八名である

平署員種痘

平警察署にては各地に天然痘流行の際である爲め本日管内巡査

- 三村郵便局に公衆電話の設備なく不便多き爲め通信局に種々運動中であつたが此程開設の通牒に接した爲め工費七千七百圓の寄附制當を協定中であつて本年度内には完成開通の見込である
- 公人私人
 - 伊藤儀七氏(平警察署長)昨夜警察部長の隨行で小名濱に宿泊中であつたが火車と聞き自轉車を飛ばして歸署署員を指揮し今朝一番の汽車で部長の後を追つた
 - 中野浩忠氏(磐城新聞社長)復興の東都にて活躍中だが近く歸平する
 - 酒井寅之助氏(石城郡書記)郡吏員の淘汰に際し首席郡書記に昇進するの評専ら多い
- 石城蠶業同窓 石城郡内に於ける本縣蠶業學校の卒業生は其數二百名に達して居る依り二月中旬頃を期し同窓會支部發會式を舉行すると
- 平町人事
 - 出 生
 - △紺屋町 酒井清二女良子
 - △大工町 三富隆藏二女安
 - ▲死 亡
 - △紺屋町 小橋好之助(六八)
 - △白銀町 丸山マサ(二三)
 - △田町 小林金次郎(一一)